

## [報告] 関東大震災と神奈川県

(第 29 回歴史地震研究会公開講演会要旨)

名古屋大学減災連携研究センター\* 武村雅之

### § 1. 関東地震の震源と余震

関東大震災は我が国の自然災害史上最悪の被害をもたらした。その震災を引き起こしたのが関東地震である。関東地震の震源時間は 1923(大正 12)年 9 月 1 日 11 時 58 分 32 秒で、震源位置は、震央が神奈川県西部の松田付近で、深さが 25km と推定されている。マグニチュード M は 7.9 である。

関東地震は海溝型地震である。その発生原因は、フィリピン海プレートの潜り込みによっている。震源での大変動によって隆起、沈降した土地の様子を見ると、上盤側の房総半島から三浦半島さらには伊豆半島の付け根にかけて、最大で 2m 近く土地が隆起した。一方、下盤側の伊豆半島ではやや沈降したところもある。土地の変動は海底でも起こり、それによって津波が発生した。

余震は M7 を超えるものが 6 つも発生している。中でも、本震直後の 12 時 01 分と 12 時 03 分ころに発生した余震は、東京を中心に、“関東地震は 3 度揺れた”という体験談を広く残した。また翌年の 1 月 15 日に発生した余震は顕著な被害をもたらしたので、丹沢地震と呼ばれることもある。

### § 2. 神奈川県における被害

関東大震災による死者は約 10 万 5 千人にも及んだ。そのうち約 9 万 2 千人が火災による死者数である。その他の要因による死者数も約 1 万 3 千人を数え、通常の被害地震に比べて決して少なくない。その大半が住家全潰によるものである。また、揺れによる全潰住家数(焼失地域では焼失前に全潰していたと推定される家屋数を含む)も約 11 万棟と推定される。これらはいずれも 1891(明治 24)年の濃尾地震や 1995(平成 7)年の兵庫県南部地震の被害を上回るものである。

県別に被害の特徴を見ると、東京府は東京市での大火災の影響で、火災による死者数や住家の焼失棟数が群を抜いて多いが、住家全潰数やそれによる死者数は神奈川県の方が多し。神奈川県は震源断層の真上に位置しほぼ全域が震度 6 以上の地域となった。

火災で東京市に次いで大きな被害を出した横浜市は、当時東京市に比べて面積は 1/2 以下であるにも係わらず、出火件数は 289 件と東京市の 134 件を遙

かに上回っていた。焼失地域は江戸時代から埋立が行われてきた大岡川と中村川・堀川に囲まれた地域を中心に、ほとんどが地盤の悪い地域である。これらの地域では、震源に近い分揺れの強さも東京市を上回っていた。

次に、横須賀市では小川町、日の出町から米が浜通に至る一帯が焼失した。この地域も大半は幕末から明治にかけての埋立地である。一方、歴史的伝統を誇る城下町小田原と古都鎌倉では密集市街地が延焼した。小田原町では 12ヶ所、鎌倉町では 10ヶ所の火元が報告されている。

関東地震による津波は、相模湾から伊豆半島にかけて高さが 5m 以上に達し、地震発生後早いところで数分以内に陸地に到達した。また、地震による強い揺れは神奈川県の各所で土砂崩れを引き起こした。横浜、横須賀、鎌倉などの都市部でも被害は大きく、鎌倉は市内に通じる鉄道や道路が寸断され一時孤立した。丹沢や箱根などの山間部ではさらに被害が大きかった。特に箱根の外輪山が相模湾と接する足柄下郡片浦村(現小田原市)の根府川、米神では合計で 500 人近い犠牲者を出した。

### § 3. 記念碑に学ぶ

関東大震災に際しては、多くの供養碑や記念碑が建立されている。講演では相模川周辺の茅ヶ崎・寒川・平塚におけるものを紹介した。そのうち寒川町倉見神社の碑には以下のように刻まれている。

#### 大震災記念

(前略) 我が倉見八百三十二戸ニシテ全潰九十四半潰三十八死者十二名ヲ出シ物資ノ損害實ニ算ナシ加之餘震屢起リ数月ニ及ビ殊ニ翌年一月十五日午前五時ノ大餘震ハ最激甚ナリシ嗚呼怖ルベキ八天災地變矣

また、同町北部文化福祉会館の碑には以下のように刻まれている。

#### 大震災記念

(前略) 當町戸数三十而シテ焼失三全潰二十六半潰一全キモノ更ニナク死者一名負傷者三名ヲ出入實ニ有史以來ノ悲惨事タリ 此ノ時ニ當リ大工職谷

\* 〒464-0029 名古屋市千種区不老町  
電子メール: takemura.masayuki@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

澤長蔵君父子挺身家屋ノ復旧ニ従事シ孜々營々未ダ周年ナラザルニ町民皆安住ノ所ヲ得タルハーツニ君ガ献身的行動ノ賜トイウベシ茲ニ町民八大震災ヲ記念シ君ノ徳ヲ頌センガ為メ石ニ刻シテコレヲ後昆ニ傳フ

前者は後世に天災の恐ろしさを伝えようとしているし、後者は、震災復興のためには、日ごろから住民同士の間が重要であることをうかがわせるものである。